

〔史料紹介〕

## 伏見組町名を載せる近世大坂絵図

### はじめに

本稿では近世大坂において伏見組に属した町を載せる肉筆のいわゆる大坂三郷町絵図(以下、白杵本三郷町絵図または本図)を紹介する。その存在自体はすでに報告がおこなわれており(白杵市教育委員会二〇〇五)、筆者も伏見組について検討した前稿において触れた部分がある(大澤二〇一三)。しかしそれ自体の史料性に関する検討はこれまでかならずしも十分とはいえなかった。そこで本稿では本図の基礎的考察をおこない、その史料的意義を紹介したいと思う。

### 一 白杵本三郷町絵図の現状と年代観

本図は大分県白杵市教育委員会の所蔵にかかるものである。現状では畳物の形状で保管されている。同教委による報告書では次のように紹介がなされている(白杵市教育委員会二〇〇五)。

・番号 通番三九〇、整理番号一九四

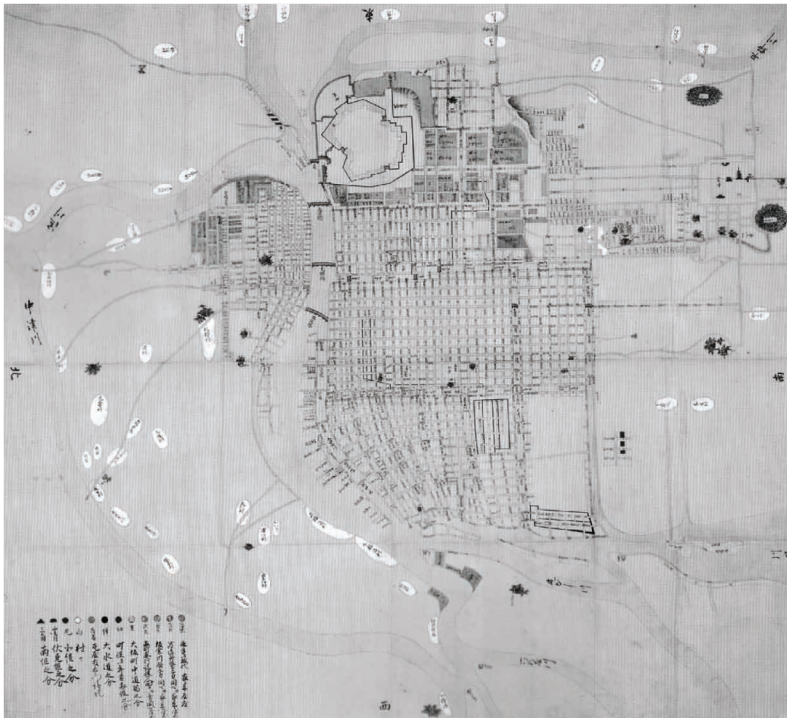


写真1 白杵本三郷町絵図全図(白杵市教育委員会蔵)

大澤  
研一

・名称 大坂之図  
 ・年代 一七世紀前半～中葉か  
 ・法量 一二センチ×一三五センチ  
 ・技法 墨書彩色  
 ・解説 開発状況から判断すると、一九二(白杵市教育委員会所蔵「大坂絵図」：大澤注などと同じ年代推定になるが、「伏見組」は正保三年以前に消えた町組であり、彦坂壺岐守と松平隼人正が共に町奉行を務めた時期は寛文元年～同三年であることなど、違う年代の内容が混在している。写作成時の混乱を示すものか。

※アラビア数字は漢数字に改めた。

ここでは本図に関するもつとも基本となるデータが示されているが、その検証も兼ねて筆者なりの視点で本図の性格と年代観にかかわる事項を検討し、私見の提示をおこなっておきたい。なお、伏見組に関する検討は次章であつかう。

●凡例と構図

最初に凡例と全体の構図についてみてみよう。絵図の場合、凡例はその図の制作意図などをうかがう際に重要なてがかりとなるものである。本図の凡例は次のとおりである。

- 薄紫 追手御城代 家来屋敷
- 薄梯 渡辺丹後守与力同心并家来屋敷
- 萌黄 板倉内膳与力同心并家来屋敷
- 浅黄 両町奉行諸役人面々并与力同心屋敷
- 黄 大坂町中道筋之分
- 紅 町役御年貢両役之分

- 紺 大水道之分
- 薄墨 瓦屋藤右衛門請地
- 白 村々
- 丸 北組之分
- 半月 伏見組之分
- △三角 南組之分

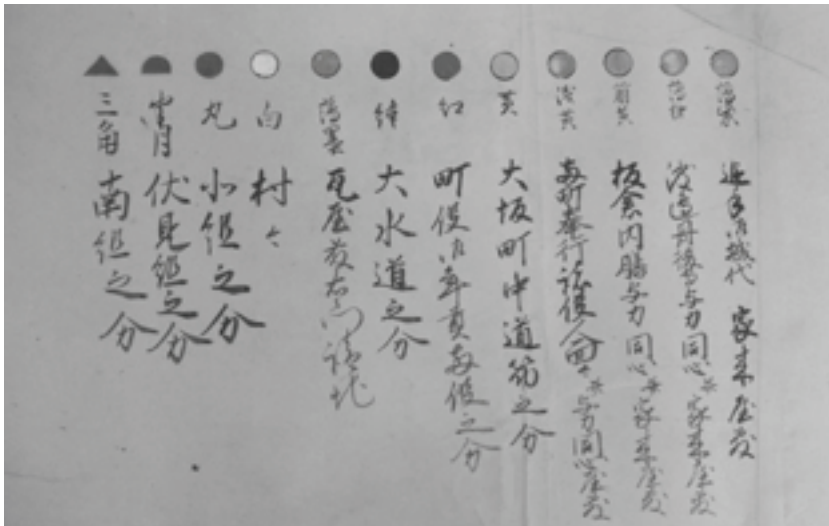


写真2 白杵本三郷町絵図凡例

凡例に取り上げられている項目は城代以下の武家地や道筋、年貢地、大水道などで、最後に三郷を組ごとに記す形式をとっている。ここで注意したいのはとりあげられた項目内容やその配列の順序、色分けの色であるが、それらについてはいわゆる「大坂三郷町絵図」と呼ばれる肉筆の大坂町絵図の一群(大澤二〇〇八)と基本的に一致している点が注目される。

次に構図である。基本的な構図として本図は東を上にとり、中心に大坂の町を描いたうえで北西隅に凡例を置いている。また描写範囲として東は平野川、南は四天王寺、西は北伝法、北は中津川までとなっている。これらについても原則「大坂三郷町絵図」と共通しており、したがって、絵図の系譜という面では本図は「大坂三郷町絵図」に属すとみることができようである。

「大坂三郷町絵図」の制作契機・過程については現時点でまだ不明な点が多いものの、惣会所において制作・保管されたと推測される事例が若干存在することがわかっている(大澤二〇〇八)。本図の場合、成立に直接かわる情報は付属していないが、上記のような形式的・構図的な類似性がみられることを考えると、同様の経過で制作・保管された図であった可能性は否定できないことを指摘しておきたい。

●年代観

次に本図の年代観(内容年代)について、図中にみられる二種の人名情報から検討してみたい。ひとつは幕府関連の大坂役人衆であり、もうひとつは蔵屋敷の大名である。なお、これは伝存するすべての大坂三郷町絵図(さらには近世の大坂図)に共通する特徴であるが、役を退いたり没したりした人名が後々まで図中に残される現象がしばしばみられる(すなわち情報の更新がリアルタイムでおこなわれない)。そのため最新の年代情報を基準に

しながらも、ある程度幅をもった年代想定とならざるをえないことをあらかじめ断っておく。

◎幕府関連大坂役人衆

本図には大坂城代の名は記されていないが、京橋口・玉造口の両定番以下、東西町奉行、大坂船手など主要な役付が記されている。表1はそれらを書き出しそれぞれの在任期間を示したものである。これらのなかで最も新しく当該職に就いたのは玉造口定番の渡辺丹後守吉綱で、寛文二年(一六六二)二月のことである。一方、職を離れたほうの人物をみると、万治元年

表1 幕府関連大坂役人衆一覧

白杵本三郷町絵図	
大坂城代	(なし)
京橋口定番	板倉内膳正(重矩) 万治3.11.21~寛文5.12.22
玉造口定番	渡辺丹後守(吉綱) 寛文2.2.8~寛文8.9.19
東町奉行	松平隼人正(重継) 慶安1.2.16~寛文3.4.11
西町奉行	彦坂吉岐守(重治) 寛文1.11.15~延宝5.9.13
大坂船手	小浜民部少輔(嘉隆) 寛永19.7.19~寛文4.3.23(没)
上方代官	(なし)
蔵奉行	万年弥三郎(正頼) 寛永4.10.29~寛文3 間宮庄五郎(正勝) 正保4.12.27~(寛文11没) 松平長右衛門(昌舎) 寛永16.閏11.7~明暦1.11.8(没)
金奉行	深津茂左衛門(定則) 正保4.12.27~万治3.9.6(没) 土屋勘左衛門(正次) 承応2.8.15~万治2.12.2(没) 永田伝左衛門(重路) 正保4.12.27~延宝1.5.28
鉄砲奉行	小泉久弥(久弥之助吉辰) 寛永20.9.27~寛文4.8.11(没) 長尾庄右衛門(景信) 寛永20.9.27~寛文5.5.24(没) 嶋弥次右衛門(正成) 正保4.12.27~寛文3
弓奉行	飯河藤次郎(盛政) 寛永11.3.26~万治1.1.16(没) 大久保勘九郎 寛永16.3.7~寛文8(没)
具足奉行	糟屋与兵衛(吉政) 寛永16.3.7~寛文8.5.2(没)
材木奉行	田辺(部)惣十郎(良栄) 承応2.8.15~寛文5.12.23(没) 福井孫兵衛(久富) 承応2.8.11~寛文4(没)

(二六五八)正月に没した弓奉行の飯河藤次郎盛政を含め万治年中に職を去った三名が名をとどめており、これらは寛文二年以前となるわけだが、おそらくは更新されないまま表記が残されたものとみられる。したがってこれら三名を除外したうえで、最も早く職を去った人物をさがすと、鉄砲奉行の嶋弥次右衛門正成が寛文三年に職を離れたことがわかる。したがって、幕府関連役職の情報から推測できる本図の成立年代は早くとも寛文二年となり、逆に下限についてはもともとさかのぼった場合で同三年になるので、寛文前半期をひとつの目安として考えておきたい。

◎蔵屋敷の大名

近世大坂には各地の大名が設けた多数の蔵屋敷が存在し、近世大坂図の多くでは蔵屋敷の所在地にそれを保有した大名の名が記されている。大名は当然代替わりがあり、また同一人物でも途中で官途名が変わったり、さらにさまざまな事情で蔵屋敷が移転することもありたりしたので(豆谷二〇〇一)、それらの情報を丹念に検討すれば当該大坂図の内容年代を推測することが可能となる。本図についてもそれらの検討から年代情報を得ることとしたいが、ここでは大坂役人衆の在任期間から内容年代がほぼ同じと推測される他の大坂三郷町絵図を利用し、さらにそののちに刊行された『難波鶴』の内容と比較することで、本図の年代観を確認することとしたい。利用する大坂三郷町絵図は大阪市史編纂所所蔵のもの(登録番号四一三。以下、市史図)である。この図は大坂役人衆の在任期間から推測するに内容年代が寛文四年(一六六四)頃と考えた図である(大澤二〇〇八)。『難波鶴』はこれら二つの図からわずかに年が下る延宝七年(一六七九)に刊行された大坂の地誌で、蔵屋敷についても所在地と保有大名を詳細に載せている。表2はこれら大坂三郷町絵図と『難波鶴』に載せられた蔵屋敷の所在地とそ

表 3

表2の番号	臼杵本・大阪市史本		難波鶴		備考
		藩主在任期間		藩主在任期間	
10、95、96	稲葉能登守信通	寛永18～延宝元	稲葉右京亮景通	延宝元～元禄7	
13	本多能登守忠義	慶安2～寛文2	本多下野守忠平	寛文2～天和元	
28	山崎虎之助治頼	承応元～明暦3	山崎勘解由豊治	万治元～元禄元	
31	森内記長継	寛永11～延宝2	森伯耆守長武	延宝2～貞享3	
32	水谷伊勢守勝隆	寛永19～寛文4	水谷左京亮勝宗	寛文4～元禄2	
40	加藤出羽守泰興	元和9～延宝2	加藤遠江守	延宝2～正徳5	
41	黒田市正之勝	承応2(市正)～寛文3	黒田宮内少輔長寛	延宝4(宮内少輔)～延宝5	黒田長寛は延宝5に福岡藩嗣子となる
61	立花左近将監忠茂	寛永14～万治2(飛騨守)～寛文4	立花飛騨守鑑虎	寛文4～延宝4(飛騨守)～元禄9	
65	松平右京大夫		松平讃岐守		松平頼重または頼常
133	徳川大納言頼宣	元和5～寛文7	徳川大中納言光貞	寛文7～元禄11	難波鶴では「紀伊中納言」とする
137	中川山城守久清	承応2～寛文6	中川佐渡守久恒	寛文6～元禄8	

の保有大名を整理、比較したものである。表2をみると、二つの図については記載内容(大名)がほぼ同一であるのに対し、『難波鶴』では少し変化が生じている様子が見受けられる。具体的には、大名の代替わりによる変化であるが、表3に当該部分を書き出してみた。これによれば、本図および市史図にみられる大名は寛文前半～延宝初期に藩主を退いた人びとが集中しており、一方の『難波鶴』に登場する大名はその後継者であることがわかる。したがって、蔵屋敷情報から推測される本図の内容年代は寛文前半～延宝初期が目安になるといえるだろう。これは大坂役人衆から知られた内容年代とほぼ一致する。以上、二種の人名情報を検討してみた。その結果、年代観としてはおおむね寛文～延宝初期(一七世紀の第三四半期頃)ということと一致した。したがって、本図の内容年代としてこの時期を基本に考えることで問題はなと思われる。

表2 蔵屋敷の比較

通し番号	所在地	明暦元年		寛文2~3年頃		寛文4年頃		延宝7年		備考
		大阪歴史本三郷町絵図	白村本三郷町絵図	大阪市史本三郷町絵図	難波鶴	難波鶴	難波鶴	難波鶴		
1	天満・北5丁目、鈴鹿町	藤堂大学頭、伊勢津	藤堂大学頭、伊勢津	藤堂大学頭、伊勢津	藤堂大学頭、伊勢津	藤堂大学頭、伊勢津	藤堂大学頭、伊勢津	藤堂大学頭、伊勢津	1	
2	天満・金大夫町、1丁目、川崎	岡部美濃、和泉岸和田	岡部美濃、和泉岸和田	岡部美濃、和泉岸和田	岡部美濃、和泉岸和田	岡部美濃、和泉岸和田	岡部美濃、和泉岸和田	岡部美濃、和泉岸和田	2	
3	天満川崎	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	2-2	
4	天満・板橋町、唐崎町	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	豊島十左衛門	豊嶋権之丞	豊嶋権之丞	2-6	
5	天満・綿屋町	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	3	
6	天満・綿屋町	青山大膳、撰津尼崎	青山大膳、撰津尼崎	青山大膳、撰津尼崎	青山大膳、撰津尼崎	青山大膳、撰津尼崎	青山大膳、撰津尼崎	青山大膳、撰津尼崎	4	
7	天満・有馬町	有馬中務、筑後久留米	有馬中務、筑後久留米	有馬松千代、筑後久留米	有馬松千代、筑後久留米	有馬松千代、筑後久留米	有馬松千代、筑後久留米	有馬松千代、筑後久留米	5	
8	天満・有馬町	小出伊勢、丹波園部	小出いせ、丹波園部	小出伊勢、丹波園部	小出伊勢、丹波園部	小出伊勢、丹波園部	小出伊勢、丹波園部	小出伊勢、丹波園部	6	
9	天満・越後町	松平越前、越前福井	松平越前、越前福井	松平越前、越前福井	松平越前、越前福井	松平越前、越前福井	松平越前、越前福井	松平越前、越前福井	7	
10	天満・堀川町	稲葉民部、豊後臼杵	稲葉能登、豊後臼杵	稲葉能登、豊後臼杵	稲葉能登、豊後臼杵	稲葉能登、豊後臼杵	稲葉能登、豊後臼杵	稲葉能登、豊後臼杵	8	
11	天満・堀川町	松平石見、播磨山崎	松平石見、播磨山崎	松平石見、播磨山崎	松平石見、播磨山崎	松平石見、播磨山崎	松平石見、播磨山崎	松平石見、播磨山崎	9	
12	天満・綿屋町西	森内記、美作津山	森内記、美作津山	森内記、美作津山	森内記、美作津山	森内記、美作津山	森内記、美作津山	森内記、美作津山	10	
13	天満・伊勢町、北富田町	本多能登、陸奥白河	本田(多)能登、陸奥白河	本多能登守、陸奥白河	本多能登守、陸奥白河	本多能登守、陸奥白河	本多能登守、陸奥白河	本多能登守、陸奥白河	11	
14	天満・伊勢町	本多内記、大和郡山	本田(多)内記、大和郡山	本多内記、大和郡山	本多内記、大和郡山	本多内記、大和郡山	本多内記、大和郡山	本多内記、大和郡山	12	
15	天満・堀川町西	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	13	
16	天満・堀川町西	片桐半之丞、大和竜田	片桐助作、大和竜田	片桐助作、大和竜田	片桐助作、大和竜田	片桐助作、大和竜田	片桐助作、大和竜田	片桐助作、大和竜田	14	
17	天満・南木幡町	小堀大膳、近江小室	小堀大膳、近江小室	小堀大膳、近江小室	小堀大膳、近江小室	小堀大膳、近江小室	小堀大膳、近江小室	小堀大膳、近江小室	15	
18	天満・樋之上町	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	宗対馬守、対馬府中	15-3	
19	天満・11丁目	宗対馬、対馬府中	宗対馬、対馬府中	宗対馬、対馬府中	宗対馬、対馬府中	宗対馬、対馬府中	宗対馬、対馬府中	宗対馬、対馬府中	16	
20	天満・11丁目	宗対馬、対馬府中	宗対馬、対馬府中	宗対馬、対馬府中	宗対馬、対馬府中	宗対馬、対馬府中	宗対馬、対馬府中	宗対馬、対馬府中	17	
21	天満・11丁目	毛利伊勢、豊後佐伯	森(毛利)伊勢、豊後佐伯	毛利伊勢、豊後佐伯	毛利伊勢、豊後佐伯	毛利伊勢、豊後佐伯	毛利伊勢、豊後佐伯	毛利伊勢、豊後佐伯	18-2	
22	住吉町、天満11丁目下半町	鍋島信濃守、肥前佐賀	鍋島信濃守、肥前佐賀	鍋島信濃守、肥前佐賀	鍋島信濃守、肥前佐賀	鍋島信濃守、肥前佐賀	鍋島信濃守、肥前佐賀	鍋島信濃守、肥前佐賀	20	
23	天満・11丁目下半町	鍋島信濃守、肥前佐賀	鍋島信濃守、肥前佐賀	鍋島信濃守、肥前佐賀	鍋島信濃守、肥前佐賀	鍋島信濃守、肥前佐賀	鍋島信濃守、肥前佐賀	鍋島信濃守、肥前佐賀	21	
24	堂島新地1丁目	松平周防、石見浜田	松平周防、石見浜田	松平周防、石見浜田	松平周防、石見浜田	松平周防、石見浜田	松平周防、石見浜田	松平周防、石見浜田	24	
25	堂島・弥左衛門町	(なし)	安藤右京、上野高崎	(なし)	安藤右京、上野高崎	(なし)	安藤右京、上野高崎	安藤右京、上野高崎	25-2	
26	堂島新地5丁目	安藤右京、上野高崎	安藤右京、上野高崎	安藤右京、上野高崎	安藤右京、上野高崎	安藤右京、上野高崎	安藤右京、上野高崎	安藤右京、上野高崎	34	
27	堂島新地5丁目	安藤右京、上野高崎	安藤右京、上野高崎	安藤右京、上野高崎	安藤右京、上野高崎	安藤右京、上野高崎	安藤右京、上野高崎	安藤右京、上野高崎	36	
28	上中之島町	山崎虎介、讃岐丸亀	山崎虎之介、讃岐丸亀	山崎虎介、讃岐丸亀	山崎虎介、讃岐丸亀	山崎虎介、讃岐丸亀	山崎虎介、讃岐丸亀	山崎虎介、讃岐丸亀	42	
29	上中之島町	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	45	
30	上中之島町	本多内記、大和郡山	森内記、美作津山	本多内記、大和郡山	本多内記、大和郡山	本多内記、大和郡山	本多内記、大和郡山	本多内記、大和郡山	46	
31	上中之島町	森内記、美作津山	本田(多)内記、大和郡山	森内記、美作津山	森内記、美作津山	森内記、美作津山	森内記、美作津山	森内記、美作津山	47	
32	上中之島町	水谷伊勢、備前松山	水谷伊勢、備前松山	水谷伊勢守、備前松山	水谷伊勢守、備前松山	水谷伊勢守、備前松山	水谷伊勢守、備前松山	水谷伊勢守、備前松山	48	
33	上中之島町	松平隠岐、伊予松山	松平隠岐、伊予松山	松平隠岐守、伊予松山	松平隠岐守、伊予松山	松平隠岐守、伊予松山	松平隠岐守、伊予松山	松平隠岐守、伊予松山	49	
34	上中之島町	松平〔戸田〕丹波、美濃加納	松平〔戸田〕丹波、美濃加納	松平〔戸田〕丹波、美濃加納	松平〔戸田〕丹波、美濃加納	松平〔戸田〕丹波、美濃加納	松平〔戸田〕丹波、美濃加納	松平〔戸田〕丹波、美濃加納	50	
35	築嶋町	水野美作、備後福山	水野美作、備後福山	水野日向守、備後福山	水野日向守、備後福山	水野日向守、備後福山	水野日向守、備後福山	水野日向守、備後福山	53	
36	築嶋町	松平〔大給〕将監、豊後中津曾、高松	松平〔大給〕将監、豊後府中	松平〔大給〕将監、豊後府中	松平〔大給〕将監、豊後府中	松平〔大給〕将監、豊後府中	松平〔大給〕将監、豊後府中	松平〔大給〕将監、豊後府中	53-2	
37	築嶋町	小笠原一岐、三河吉田	小笠原吉岐、三河吉田	小笠原吉岐、三河吉田	小笠原吉岐、三河吉田	小笠原吉岐、三河吉田	小笠原吉岐、三河吉田	小笠原吉岐、三河吉田	54	
38	築嶋町	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	松平〔池田〕新太郎、備前岡山	55	
39	久保町	松浦肥前、肥前平戸	松浦肥前、肥前平戸	松浦肥前守、肥前平戸	松浦肥前守、肥前平戸	松浦肥前守、肥前平戸	松浦肥前守、肥前平戸	松浦肥前守、肥前平戸	56	
40	久保町	加藤出羽	加藤出羽	加藤出羽守、伊予大洲	加藤出羽守、伊予大洲	加藤出羽守、伊予大洲	加藤出羽守、伊予大洲	加藤出羽守、伊予大洲	57	
41	久保町	黒田市正	黒田市正	筑前東蓮寺	筑前東蓮寺	筑前東蓮寺	筑前東蓮寺	筑前東蓮寺	57-2	
42	久保町	伊達遠江、伊予宇和島	伊達遠江、伊予宇和島	伊達遠江守、伊予宇和島	伊達遠江守、伊予宇和島	伊達遠江守、伊予宇和島	伊達遠江守、伊予宇和島	伊達遠江守、伊予宇和島	58	
43	久保町	黒田甲斐、筑前秋月	黒田甲斐、筑前秋月	黒田甲斐守、筑前秋月	黒田甲斐守、筑前秋月	黒田甲斐守、筑前秋月	黒田甲斐守、筑前秋月	黒田甲斐守、筑前秋月	59	
44	白子嶋町	松平右衛門佐、筑前福岡	松平右衛門佐、筑前福岡	松平右衛門佐、筑前福岡	松平右衛門佐、筑前福岡	松平右衛門佐、筑前福岡	松平右衛門佐、筑前福岡	松平右衛門佐、筑前福岡	60	
45	宗是町	松平〔池田〕相模、因幡鳥取	松平〔池田〕相模、因幡鳥取	松平〔池田〕相模守、因幡鳥取	松平〔池田〕相模守、因幡鳥取	松平〔池田〕相模守、因幡鳥取	松平〔池田〕相模守、因幡鳥取	松平〔池田〕相模守、因幡鳥取	61	
46	西信町	久留島丹波、豊後森	久留島丹波、豊後森	久留島丹波、豊後森	久留島丹波、豊後森	久留島丹波、豊後森	久留島丹波、豊後森	久留島丹波、豊後森	62	
47	西信町	五島孫二郎、肥前福江	五島孫二郎、肥前福江	五島孫二郎、肥前福江	五島孫二郎、肥前福江	五島孫二郎、肥前福江	五島孫二郎、肥前福江	五島孫二郎、肥前福江	63	
48	常安町	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	松平備後	64	
49	常安町	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	町や	64-2	
50	常安町	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	浅野内匠	65	
51	常安町	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	松平日向	66	
52	常安町	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	中川山城	67	
53	常安町	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	67-2	
54	常安町	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	67-3	
55	常安町	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	67-4	
56	常安町	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	67-5	
57	本五分一町	松平〔津野〕安芸、安芸広島	(なし)	松平〔津野〕安芸守、安芸広島	松平〔津野〕安芸守、安芸広島	松平〔津野〕安芸守、安芸広島	松平〔津野〕安芸守、安芸広島	松平〔津野〕安芸守、安芸広島	68	
58	常安裏町	有馬中務、筑後久留米	有馬中務、筑後久留米	有馬松千代、筑後久留米	有馬松千代、筑後久留米	有馬松千代、筑後久留米	有馬松千代、筑後久留米	有馬松千代、筑後久留米	69	
59	常安裏町	町屋	町屋	町屋	町屋	町屋	町屋	町屋	69-2	
60	常安町	大久保加賀、肥前唐津	大久保加賀、肥前唐津	大久保加賀、肥前唐津	大久保加賀、肥前唐津	大久保加賀、肥前唐津	大久保加賀、肥前唐津	大久保加賀、肥前唐津	70	
61	常安町	立花左近、筑後柳河	立花左近、筑後柳河	立花左近、筑後柳河	立花左近、筑後柳河	立花左近、筑後柳河	立花左近、筑後柳河	立花左近、筑後柳河	70-2	
62	常安町	日根織部、豊後府内	日根織部、豊後府内	日根織部、(明暦2年絶家)	日根織部、(明暦2年絶家)	日根織部、(明暦2年絶家)	日根織部、(明暦2年絶家)	日根織部、(明暦2年絶家)	71	
63	常安町	(なし)	(なし)	京極刑部	京極刑部	京極刑部	京極刑部	京極刑部	71-2	
64	常安裏町	町屋	町屋	中嶋赤分、伊丹屋道壽、讀地之分	中嶋赤分、伊丹屋道壽、讀地之分	中嶋赤分、伊丹屋道壽、讀地之分	中嶋赤分、伊丹屋道壽、讀地之分	中嶋赤分、伊丹屋道壽、讀地之分	72-0	
65	常安裏町	松平右京大夫、讃岐高松	松平右京大夫、讃岐高松	松平右京大夫、讃岐高松	松平右京大夫、讃岐高松	松平右京大夫、讃岐高松	松平右京大夫、讃岐高松	松平右京大夫、讃岐高松	72	
66	常安町	松平下総、出羽山形	松平下総守、出羽山形	松平下総守、出羽山形	松平下総守、出羽山形	松平下総守、出羽山形	松平下総守、出羽山形	松平下総守、出羽山形	73	
67	常安町	京極刑部、播磨竜野	京極刑部、播磨竜野	京極刑部、播磨竜野	京極刑部、播磨竜野	京極刑部、播磨竜野	京極刑部、播磨竜野	(なし)	74	
68	常安町	細川越中、肥後熊本	細川越中、肥後熊本	細川越中守、肥後熊本	細川越中守、肥後熊本	細川越中守、肥後熊本	細川越中守、肥後熊本	細川越中守、肥後熊本	76	
69	常安町	宗対馬、対馬府中	宗対馬、対馬府中	宗対馬守、対馬府中	宗対馬守、対馬府中	宗対馬守、対馬府中	宗対馬守、対馬府中	宗対馬守、対馬府中	77	
70	常安町	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	宗対馬守、対馬府中	78	
71	常安町	松平出羽	松平出羽	松平出羽	松平出羽	松平出羽	松平出羽	松平出羽	79	

通し番号	所在地	明暦元年 大阪歴博本三郷町絵図	寛文2~3年頃 臼杵本三郷町絵図	寛文4年頃 大阪市史本三郷町絵図	延宝7年 難波鶴	備考
72	常安町	(なし)	(なし)	町屋	(なし)	79-2
73	常安裏町	(なし)	(なし)	(なし)	[ ]	80
74	塩屋六左衛門町	松平出羽 出雲松江	小笠原信濃 豊前中津	小笠原信濃 豊前中津		81
75	塩屋六左衛門町・常安裏町	小笠原信濃 豊前中津	小笠原右近 豊前小倉	小笠原右近 豊前小倉		82
76	塩屋六左衛門町	小笠原右近 豊前小倉	小笠原右近 豊前小倉	小笠原右近 豊前小倉		83
77	白子町	松平出羽 出雲松江	松平出羽 出雲松江	松平出羽 出雲松江	(なし)	85
78	白子町	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	85-2
79	江戸堀1丁目	(なし)	九鬼孫二郎	(なし)	(なし)	85-4
80	江戸堀1丁目	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	85-5
81	江戸堀1丁目	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	85-6
82	白子町	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	86
83	白子町	一柳監物 伊予小松	一柳監物 伊予小松	一柳監物 伊予小松	一柳監物 伊予小松	87
84	江戸堀2丁目	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	87-2
85	土佐堀1丁目	(なし)	松平大膳	(なし)	(なし)	88
86	土佐堀1丁目	青山大膳 撰津尼崎	青山大膳 撰津尼崎	青山大膳 撰津尼崎	(なし)	89
87	土佐堀1丁目	加藤織部 伊予新谷	加藤織部 伊予新谷	加藤織部 伊予新谷	加藤織部 伊予新谷	89-2
88	土佐堀1丁目		(なし)		(なし)	90
89	土佐堀1丁目	松平周防 石見浜田	(なし)	松平周防 石見浜田	(なし)	91
90	土佐堀1丁目		松平周防 石見浜田			92
91	土佐堀1丁目		伊藤監物		松平周防 石見浜田	93
92	土佐堀1丁目		(なし)			93-2
93	土佐堀2丁目、江戸堀5丁目	松平薩摩 薩摩鹿兒島	松平薩摩 薩摩鹿兒島	松平薩摩守 薩摩鹿兒島	松平薩摩 薩摩鹿兒島	94
94	土佐堀2丁目、江戸堀5丁目	島津但馬 日向佐土原	島津但馬 日向佐土原	島津但馬 日向佐土原	島津但馬 日向佐土原	95
95	土佐堀2丁目、江戸堀5丁目	稲葉能登 豊後臼杵	稲葉能登 豊後臼杵	稲葉能登 豊後臼杵	稲葉右京 豊後臼杵	96
96	土佐堀2丁目、江戸堀5丁目					96-2
97	土佐堀2丁目、江戸堀5丁目	木下伊賀 豊後日出	木下伊賀 豊後日出	木下伊賀 豊後日出	(なし)	97
98	土佐堀2丁目、江戸堀5丁目	(なし)			(なし)	98
99	土佐堀2丁目、江戸堀5丁目	(なし)			(なし)	98-2
100	江戸堀2丁目	相良一岐 肥後人吉	相良壹岐 肥後人吉	相良一岐 肥後人吉	相良壹岐 肥後人吉	99
101	江戸堀3丁目	松平阿波 阿波徳島	松平阿波 阿波徳島	松平阿波 阿波徳島	松平阿波 阿波徳島	100
102	江戸堀3丁目	有馬左衛門佐 日向延岡	有馬左衛門佐 日向延岡	有馬左衛門佐 日向延岡	(なし)	101
103	江戸堀4丁目	森(毛利)甲斐 長門府中	毛利甲斐 長門府中	(なし)	(なし)	102
104	江戸堀4丁目	松平【久松】美作 伊予今治	松平【久松】美作 伊予今治	(なし)	松平【久松】美作 伊予今治	103
105	江戸堀4丁目	秋月長門 日向高鍋	秋月長門 日向高鍋	(なし)	秋月長門 日向高鍋	104
106	江戸堀4丁目	伊東大和 日向鉄肥	伊藤(東)大和 日向鉄肥	(なし)	伊藤(東)大和 日向鉄肥	105
107	江戸堀4丁目	亀井能登 石見津和野	亀井能登 石見津和野	(なし)	亀井能登 石見津和野	106
108	江戸堀4丁目	(なし)	(なし)	(なし)	毛利右京	106-2
109	江戸堀5丁目	松平【浅野】安芸 安芸広島	松平【浅野】安芸 安芸広島	(なし)	(なし)	107
110	江戸堀5丁目	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	108
111	江戸堀5丁目	木下縫 旗本	木下縫助 旗本	(なし)	木下淡路守	109
112	立売堀北側中町	松平阿波 阿波徳島	松平阿波 阿波徳島	松平阿波守 阿波徳島	松平阿波守 阿波徳島	110
113	立売堀西ノ町	(なし)	(なし)	(なし)	毛利日向守 周防徳山	111
114	立売堀西ノ町	(なし)	(なし)	(なし)	松平大隅守 薩摩鹿兒島	111-2
115	立売堀西ノ町	毛利日向 周防徳山	毛利日向 周防徳山	毛利日向守 周防徳山	(なし)	112
116	立売堀西ノ町	松平大隅 薩摩鹿兒島	松平大隅 薩摩鹿兒島	松平大隅守 薩摩鹿兒島	(なし)	113
117	立売堀西ノ町	松平大隅 薩摩鹿兒島	松平大隅 薩摩鹿兒島	松平大隅守 薩摩鹿兒島	松平大隅守 薩摩鹿兒島	114
118	長堀	松平大膳大夫 長門萩	(なし)	(なし)	松平大膳大夫 長門萩	115
119	長堀近江橋南詰	伊達遠江守 伊予宇和島	伊達遠江 伊予宇和島	伊達遠江守 伊予宇和島	(なし)	116
120	長堀近江橋南詰	加藤式部 石見吉永	加藤式部 石見吉永	加藤式部 石見吉永	(なし)	117
121	長堀近江橋南詰(富田町)	松平【山内】土佐 土佐高知	松平【山内】土佐 土佐高知	松平【山内】土佐 土佐高知	(なし)	118
122	長堀近江橋南詰(富田町)	本田内記 大和郡山	本田内記 大和郡山	本田内記 大和郡山	(なし)	119
123	長堀鯉座橋南詰(白髪町)	松平土佐 土佐高知	松平土佐守 土佐高知	松平土佐守 土佐高知	松平土佐守 土佐高知	120
124	鰻谷1丁目	織田源十郎 大和柳本	(なし)	織田源十郎 大和柳本	(なし)	121
125	高津五郎右衛門町	片桐主膳 大和小泉	片桐主膳 大和小泉	(なし)	(なし)	122
126	本町橋橋詰町	松村吉左衛門	末吉勘八 松村吉左衛門	(なし)	(なし)	122-7
127	なや町西	中村木工右衛門	中村木工右衛門	中村木工右衛門	中村木工右衛門	122-8
128	新与左衛門町西	「御蔵」	「御蔵」	「御蔵」	「御蔵」	122-9
129	大黒町・太郎左衛門町	彦坂平九郎	彦坂平九郎	(なし)	(なし)	122-10
130	大津町・南新町3丁目	松波十右衛門	松波十右衛門	(なし)	(なし)	122-11
131	農人材木町	(なし)	(なし)	(なし)	有馬中務	122-12
132	農人材木町	(なし)	(なし)	(なし)	松平阿波	122-13
133	京橋5丁目	紀伊大納言 紀伊和歌山	紀伊大納言 紀伊和歌山	紀伊大納言 紀伊和歌山	紀伊大納言 紀伊和歌山	123
134	京橋4丁目	高力攝津 肥前島原	高力攝津 肥前島原	高力左近大夫 肥前島原	高力左近大夫 肥前島原	124
135	谷町2丁目	(なし)	小川又左衛門	(なし)	(なし)	124-2
136	備前島	永井信濃守 山城淀	永井信濃守 山城淀	(なし)	永井信濃守	125
137	過書町	中川山城 豊後岡	中川山城 豊後岡	中川山城 豊後岡	中川佐渡守 豊後竹田	126
138	七郎右衛門町1丁目	毛利長門 長門萩	松平大膳	松平大膳大夫	(なし)	128

・所在地名は史料により違いがある。判明するものは可能な限り収録した。  
 ・[ ]は判読不能を意味する。

## 二 伏見組の表記について

第一章では本図の構図と内容年代について検討を加えた。その結果を念頭に置きながら次に本図のもっとも大きな特長である伏見組の表記について考えてみたい。

そのまえに伏見組の変遷について簡単にまとめておこう。京都伏見からの町人移住が契機となって成立した伏見組は寛永十一年(一六三四)には「北与・天満与・南与」とならぶ「伏見与」として一次史料で確認できる<sup>1)</sup>。

しかしその後、延宝八年(一六八〇)には「伏見惣代老人北組江被召加」(宝暦三年(一七五三)「初発言上候帳面写」『大阪市史 第五巻』所収)とあって伏見組惣代が北組の惣代に組み替えられており、このころには伏見組の解体が大詰めであったことがうかがえる。

伏見組の規模やそれを構成した町名については、「初発言上候帳面写」から情報を得ることができる。これによれば当初「八拾丁余町々伏見大坂江引越」してきたといわれるので、元和六年(一六二〇)春頃、伏見から大坂へ移転してきた町人による八〇余りの町が伏見組の母体だったと推測される。つまりこの数が構成町の最大数の目安ということになる。その後の町数に関する記録としては延宝六年(一六七八)刊『大坂道おしる』がある(内田一九八九)。そこでは「伏見くミ 五十七町」とあるので、当初が八〇ほどだったとすれば半世紀ほどで約七割に減少したことがわかる。では最大の関心事である本図における伏見組の表示のありかたについてみていこう。まず凡例であるが、先に紹介したように、本図において合紋を用いて示された組は北・伏見・南の三組となっている。凡例に伏見組が掲げられた大坂図は肉筆図・版行図を問わずこれまで管見に触れていな

いので、その点でなにより貴重な図であることをまず強調しておきたい。

ところで、本図が制作された一七世紀後半に存在していたはずの天満組の合紋は図中にみられない。しかしこの点にかかわっては、少なくとも貞享年間までの大坂三郷町絵図において天満組が合紋で示されることはない(すなわち天満組は無紋であり、そのため凡例に登場しない)ので(大澤二〇〇八)、その点での問題はない。むしろ伏見組がまだ存続していた時期の大坂三郷町絵図である前述の市史図や寛文六年(一七六六)頃の大坂歴史博物館蔵大坂三郷町絵図(歴七三四七)では北・南組のみが凡例で取り上げられていることにくらべ、本図はこの当時並存していた伏見組の存在を省略することなく示している点でおおいに注目されるのである。

一方、図上における合紋の描き方については、本図は他の大坂三郷町絵図とは違いをみせている。たとえば市史図で無紋の天満組を除く北組・南組のエリアではすべての町で各組の合紋が町のベタ塗町家部分に付される。それに対し、本図では全部の町に合紋が付されているわけではない。組を問わず上町地区・西船場地区では合紋が比較的密である一方で、船場地区・島之内地区においては合紋がかなり疎らという描写のバラツキがみられる。また細かくみると、合紋が描かれる場所は町家部分ではなく、街路上という違いもある。どうしてこうした表示が採用されたのかはよくわからないが、相違点として注意を払っておきたい。

このように本図ではすべての町に組表示がなされているわけではないという点に留意する必要があるが、伏見組に属した町が具体的に図上に示されている点での重要性には変わりはない。

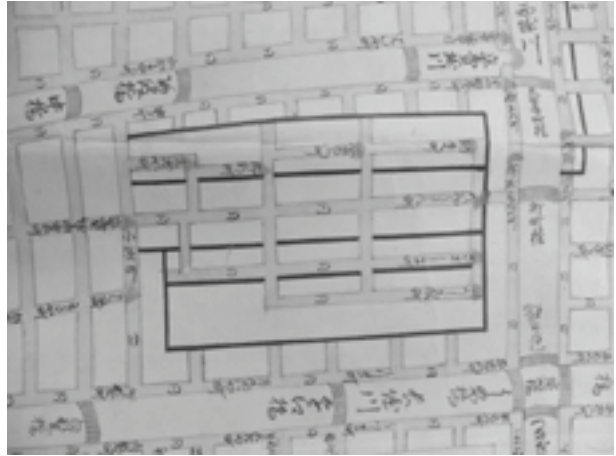


写真3 白杵本三郷町絵図新町部分

旧記等無御座相知不申候」という状況になっていた。その六十四町について同史料では一つ書きでグループピングしながら宝暦三年現在の町名、および古名が判明するものについてはそれも書き上げている(表4:「宝暦三年町名」と「往古町名」)。伏見組の構成町を具体的に書き上げた史料は本史料しか知られておらず、貴重なものである。

一方、前述のように本図はこの「初発言上候帳面写」より古い一七世紀後半の内容年代をもつと推測されるので、伏見組構成町に関する早い段階の情報が得られると期待されるので、両者を比較してみていきたい。

まず「初発言上候帳面写」に掲げられた六十四町と本図の三十二町の間係である。表4をみると、三十二町のうち大半の二十九町が六十四町に含まれていることがわかる。しかし残る三町、すなわち吉原町・助兵衛町・

次に本図に載せられている伏見組の構成町の状況を具体的にみていこう。本図で伏見組所属の相紋が付せられた町名は全部で三十二ある(表4参照)。さきに紹介した宝暦三年(一七五三)

「初発言上候帳面写」によれば当初八〇町余だった構成町のうち宝暦段階で来歴の知られる町は六十四町となり、それ以外の「十六丁余ハ何之町ニ相成候哉、

金右衛門町の三町(No. 65〜67)は六十四町に名がみえない。これら三町は「初発言上候帳面写」のなかで来歴が失われたとされる一六町余に含まれる可能性があるが、いずれにしても本図によってこれら三町が伏見組に属していたことが判明したわけであり、この点は本図出現の意義のひとつといえよう(大澤二〇一三)。

次いで町名に注目してみたい。「初発言上候帳面写」に載せる伏見組構成町のなかには宝暦三年以前の旧町名、すなわち「往古町名」を記すものが少なくない。表4にそれら「往古町名」と本図の町名を併記したが、両者をくらべると近似または同一のものが少なくないことに気づく。これは本図が一七世紀後半という「初発言上候帳面写」より年代がさかのぼる史料であることによる現象であり、本図の年代性を告げてくれるとともに、「初発言上候帳面写」の記載内容の信頼性を証する意味でも重要である。

最後に注意したいのは、「初発言上候帳面写」で伏見組構成町だったと指摘された六十四町のうち本図ではすでに三十五町が伏見組を離れ、北組あるいは南組に属していた(一部推定)ことである。伏見組の解体についてはすでに正保三年(一六四六)にはその兆候がみられるという指摘があり(大阪市参事会一九一一)、拙稿でも遅くとも承応三年(一六五四)にはその動きが反映された絵図が制作されていたことを述べた(大澤二〇一三)。個々の町の動向を明らかにすることは現段階では困難だが、以上の大きな動向を前提に考えるとその後の年代観をもつ本図においてさきのような伏見組から北組・南組に転じた町が一定存在するのは当然といえよう。つまり本図には伏見組解体の途中経過が如実に反映されているのである(2)。



表4 伏見組町名一覧

通番	初発言上候帳面写			臼杵本三郷町絵図		最終所属組	備考	
	内田1982	宝暦3年町名	往古町名	伏見での町名	組合紋表記			
1	伏見町・高瀬町地区	伏見町		茶屋町	伏見町 (北組)	北組		
2	伏見町・高瀬町地区	呉服町		呉服町	呉服町 (北組)	北組		
3	伏見町・高瀬町地区	古手町		呉服町四町の内	古手町 (北組)	北組		
4	A: 上町地区	伏見両替町一丁目			両替町一丁目	伏見組	北組	
5		伏見両替町二丁目			両替町二丁目	伏見組	北組	
6		伏見両替町三丁目			両替町三丁目	伏見組	北組	
7		伏見両替町四丁目			両替町四丁目	伏見組	北組	
8		常盤町一丁目	伏見立売町一丁目			立売町一丁目	伏見組	北組
9		常盤町二丁目	伏見立売町二丁目			立売町二丁目	伏見組	北組
10		常盤町三丁目	伏見立売町三丁目			立売町三丁目	伏見組	北組
11		常盤町四丁目	伏見立売町四丁目		立売町四丁目	南組	北組	①延宝8年常盤町へ改称という
12	A: 上町地区	江戸町		伏見江戸町	江戸町	伏見組	北組	
13		和泉町		伏見和泉町	和泉町	伏見組	北組	
14	A: 上町地区	聚楽町	北聚楽町一丁目		北聚楽町	伏見組	北組	④延宝9年改称という
15		粉川町	北聚楽町二丁目		北聚楽町二丁目	伏見組	北組	④延宝9年改称という
16		神崎町	中聚楽町		中聚楽町	伏見組	北組	④天和元年改称という
17		駿河町	南聚楽町		南聚楽町	伏見組	北組	④延宝8年改称という
18		松山町	西聚楽町		松や町	(合紋なし)	南組	
19	A: 上町地区	藤森町	伏見藤森町		藤の森町	南組	南組	
20		立蔵寺町				(記載なし)	南組	
21		鍵屋町	伏見鍵屋町			鍵屋町	南組	南組
22		小倉町	伏見大黒町			大黒町	南組	北組
23	A: 上町地区	南新町一丁目			南新町一丁目	南組	南組	
24		南新町二丁目			南新町二丁目	南組	南組	
25		南新町三丁目			南新町三丁目	南組	南組	
26		北新町一丁目			北新町一丁目	伏見組	北組	
27		北新町二丁目			北新町二丁目	南組	北組	
28		北新町三丁目			北新町三丁目	南組	南組	
29		徳井町	北本町、九郎右衛門町、伏見権助町			北本町一丁目	伏見組	北組
30						北本町二丁目	伏見組	北組
31						大津町	南組	南組
32			内骨屋町	上唐物町		内骨屋町	南組	北組
33		南葎屋町			南皮屋町	北組	北組	
34		松尾町	糸屋町		上糸屋町	北組	北組	
35		與左衛門町	極印銀治町、または新興左衛門町		新興左衛門町	南組	南組	
36		松江町	伏見納屋町		納屋町	南組	南組	
37	E: 心斎町地区	五幸町	伏見町		横堀伏見町	伏見組	北組	
38	F: 下博労地区	葎屋町	清水町、または伏見葎屋町		清水町	伏見組	北組	新玉造八町(②伏見清水町、③清水町)。3では清水谷は地方別
39		桑名町	伏見伊勢町		伊勢町	伏見組	北組	新玉造八町(②伏見伊勢町)
40		宮川町	東伊勢町		東伊勢町	北組	北組	新玉造八町(②東伊勢町、③東伊勢町)
41		二本松町			二本松町	北組	北組	新玉造八町(②二本松町、③二本松町)
42		玉手町			北新町	北組	北組	新玉造八町(②北新町、③北新町)
43		松本町	大津町		大津町	北組	北組	新玉造八町(②大津町、③大津町)
44			長屋町			長屋町	伏見組	(廃絶) 新玉造八町(②伏見長屋町、③長屋町)
45		外山町			越中一丁目、越中二丁目	北組	(廃絶) 新玉造八町(②越中町、③越中町一丁目、越中町二丁目)	
46		葉山町				北組	(廃絶)	
47	D: 京町・京町地区	京町堀一丁目	京町堀一丁目	京町筋	京町堀一丁目	北組	北組	
48		京町堀二丁目	京町堀二丁目		京町堀二丁目	北組	北組	
49		京町堀三丁目	京町堀三丁目		京町堀三丁目	北組	北組	
50		京町堀四丁目	京町堀四丁目、五丁目		京町堀四丁目、五丁目	北組	北組	①延宝8年に改称
51		京町堀五丁目	京町堀六丁目		京町堀六丁目	北組	北組	①延宝8年に改称
52		京町堀六丁目	京町堀七丁目		京町堀七丁目	北組	北組	①延宝8年に改称
53	★阿波堀南	神田町	江戸紺屋町		江戸紺屋町	南組	南組	
54		箱屋町			箱屋町	伏見組	北組	
55		豊嶋町	戎町		戎町	伏見組	北組	
56		釘屋町	四郎兵衛町		四郎兵衛町	伏見組	北組	
57	B: 玉造地区	三右衛門町			三右衛門町	伏見組	北組	
58		玉造伏見坂町			伏見坂町	伏見組	南組	
59		元伏見坂町			伏見坂町	伏見組	南組	元禄16年に玉造から難波村・西高津村に移転
60	★新町	園分町			伏見清水町	伏見組	北組	
61	B: 玉造地区	藤右衛門町			横堀藤右衛門町	伏見組	南組	
62		稲木町			門前町	南組	南組	
63		清水町			稲荷町・清水町	南組	南組	
64		★阿波堀南	左官町			左官町	南組	南組
65	★新町	伊達町			伊達町	南組	南組	
66					吉原町	伏見組	北組	
67					助兵衛町	伏見組	北組	
					金右衛門町	伏見組	北組	

・本表は「初発言上候帳面写」に書き上げられている伏見組構成町とその古名を、臼杵本三郷町絵図の各絵図町名表記と比較できるようにした。また最後には伏見組構成町の最終所属組を示した。  
 ・★は内田1982に載せられていない伏見組町域推定地区(大澤2013)  
 ・備考欄の出典は次のとおり。①:『初発言上候帳面写』、②:『大阪市史 第一』、③:『与力歴譜 同附録』大阪市史編纂所蔵、④:『日本歴史地名体系 大阪府の地名』平凡社 1986年

## おわりに

以上、簡単ではあるが伏見組町名を載せる近世大坂絵図の紹介をおこなった。その結果、本図は一七世紀第三四半期頃の内容年代をもち、当時解体過程にあった伏見組の状況についても知らせる絵図だったことがわかった。その点で本図は今後の一七世紀の大坂研究に資する史料といってもよいだろう。今後大いに利用されることを期待したい。

一方で課題も残った。なぜ伏見組を載せる近世大坂絵図が極端に少ないのかという疑問である。本図以外では断片的な情報を載せる篠山本大坂絵図(大澤二〇一三)が知られているのみで、いわゆる大坂三郷町絵図の形式では本図が唯一である。その意味で本図は伏見組惣会所で作成・保管されていた可能性はあろう。いずれにしても伏見組を載せるということは当然かもしれないが同組の存在が背景にあると推測されるので、今後、調査を継続させるなかで検討を続けていきたい。

## 注

- (1) 「浜文書」(大阪市一九八九:二五一頁)。  
 (2) 本図において図示された伏見組構成町が三十二町だったのに対し、あまり年代が違わない延宝六年(一六七八)『大坂道おし多』では五十七町と記されている。その違いは小さくないがその理由を明らかにすることは現段階では難しい。本図がすべての町名を記していないためかもしれないが、今後の課題としたい。

## 参考文献

- 白杵市教育委員会 二〇〇五 『白杵市所蔵絵図資料群調査報告書』  
 内田九州男 一九八二 「大坂三郷の成立」『大阪の歴史』七号  
 内田九州男 一九八九 「近世初頭大坂三郷の地子について」『大阪の歴史』二七号  
 大阪市 一九八九 『新修大阪市史 第三巻』  
 大阪市参事会 一九一一 『大阪市史 第三』、『大阪市史 第五』  
 豆谷浩之 二〇〇一 「蔵屋敷の配置と移転に関する基礎的考察」『大阪市文化財協会研究紀要』第4号  
 大澤研一 二〇〇八 「解説」『大阪歴史博物館所蔵明暦元年大坂三郷町絵図』大阪  
 市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター・大阪歴史博物館  
 大澤研一 二〇一三 「伏見組に関する一考察―伏見組町名を載せる大坂絵図を手がかりに―」『大阪歴史博物館研究紀要』第11号

## 〔付記〕

本図には身分的差別を示す名称の記載がみられる。ここでは差別と偏見の歴史を科学的に解明する必要があるという立場に立ってそのまま掲載している。この点に対して読者の理解を求めるとともに、利用に際して十分な配慮を払われたい。

末筆となりましたが、史料調査に際し大変お世話になった白杵市教育委員会、大阪市史編纂所の皆さまに感謝申し上げます。

本稿は平成20年度河川整備基金助成事業(財団法人河川環境管理財団)「新淀川開削にともなう淀川河口部の歴史環境・生活相の変容に関する調査・研究」の成果の一部である。